

地域に支えられ



100th Anniversary 歩んできた1世紀

道南バス(室蘭市東町)がきょう3日、創立100周年の節目を迎えた。戦前戦後の激動期からモーターライゼーション、エネルギー転換など社会の趨勢(すうせい)とともに地域を支える公共交通としての役目を果たしてきた。長谷川義郎代表取締役社長に今後に懸ける決意などを聞いた。



100周年を迎えて

「創業以来、苦難の歴史の繰り返しの100年だった。太平洋戦争もあり、有珠山も2回噴火した。コロナ禍や2024年問題もあり、モーターライゼーションの普及や少子化、規制緩和など外的要因もあったが、地域に支えられたことが一番。苦労した分、経験や地域のありがたみを感じる100年だった」

記念事業は

「地域と一体となり、社員がメインだ。今年、創業から現在までの建物やバス、室蘭のまち並みを紹介する写真展をバスターミナルで1カ月ほど開催する予定。合わせて、シンガーソングライター・KENTOさんに弊社をイメージした歌をつくってもらい、ストリートピアノで



道南バス創業100周年記念 パネル展'25

7月31日(木)まで開催中!!

■場 所/東町ターミナル旧売店
■時 間/10:00~17:00

地域住民や観光客 を支える公共交通 としての役割をどう 果たすか

月からは復刻バスのラッピングも行った。
室蘭フラップスジャズオーケストラとのコラボレーションも考えている。都市間バスのミニカーも限定発売する予定。2種類あるロゴマークは、キャストルマーク仕様に統一する」

デジタル化の 導入状況は

「運賃決済システムは、国が導入を進めており、道外では完全キャッシュレスで運行した事例もある。都市部と比べて地方では導入が遅れている。乗車人数が限られるほか、更新費用の側面もある。室蘭地方ではどの決済が効果的かを見極めないといけない。秋口まで

50年、100年先を 見据えた取り組み はどのように

「労働者の賃金体系を交える。希望する金額を払わないと、今いる雇用の維持につながらない。新規採用も足踏みする。昨年は定昇制度を労使交渉でつくっており、常に労組と協議している。女性向けのPRも必要だ。地域の観光PRも重要な役目。室蘭のほか登別、洞爺の世界的観光地と手を携えた取り組みを進めたい。人口減少は避けられないが、西胆振全体では10万人の経済力がある。学校や医療機関もある地域。世の中の状況は厳しいが、これまで苦しい時代を乗り越えた諸先輩たちから、ノウハウを学んできた。新しい試みとミックスさせながら、次の時代に進みたい」



復刻カラーバス登場 当時の思い出を乗せて

同社は1925年7月3日に創業。長年にわたり、地域住民らの足として事業を展開。路線バスや高速バス、貸し切りバスなどで地域交通インフラを支えている。
復刻カラーバスは、70〜80年代と80〜90年代の車両デザインを再現。
歴史を車体カラーで振り返ることのできる当時の懐かしんでもらえたらーと企画した。
現在の車両は緑色が主体となっているが、今回は赤と白のツートンカラーと白を基調に桃色や青色をアクセントとしたデザイン。担当者は当時と車両形状が違う中、「限りなく再現した」と細部までこだわった。



先月から運行を開始した道南バスの復刻ラッピングバス



道南バス株式会社

営業所/室蘭東・登別若山・札幌・平取・静内・苫小牧・錦西・洞爺・倶知安・伊達
本 社/室蘭市東町3丁目25番3号 <https://www.donanbus.co.jp>